

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆 地殻大型地震の可能性推定前兆 続報

昨日8/31配信した実験観測情報で、現在出現中であるNo.1778前兆の第8ステージ前兆群の前兆時間変化経験則から推定される発生時期について考えました。

実際の前兆終息を観測しないと決定は困難ですが、現時点で確認できる前兆各初現と極大との関係から考察した次第です。

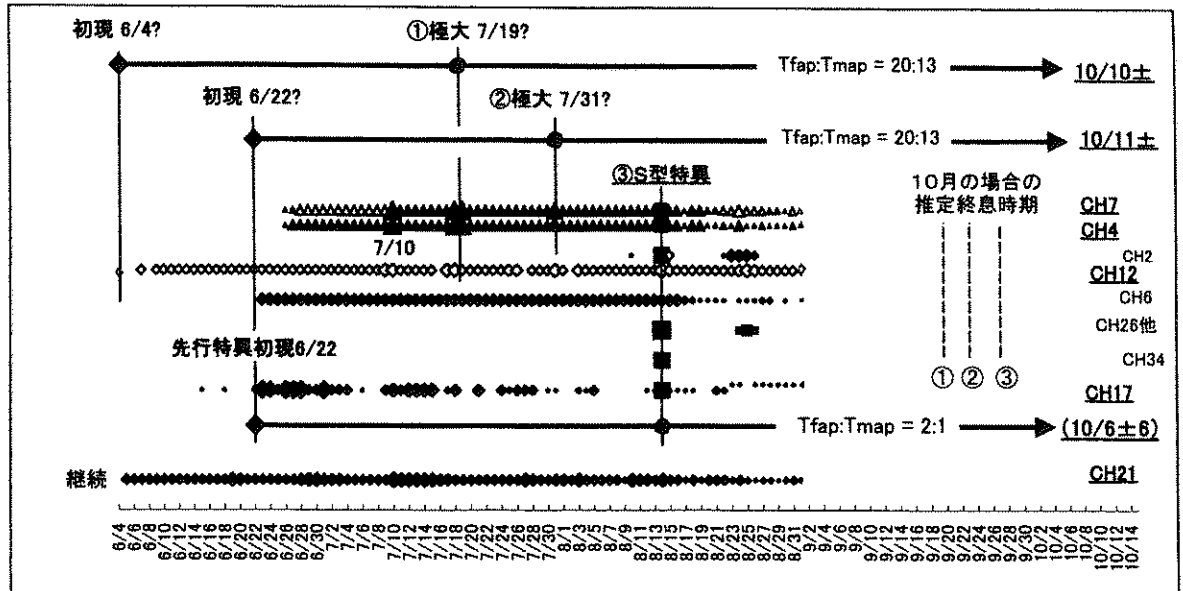
今回観測されている前兆形態は、通常観測される地震前兆である、BF/PBF/BT等の前兆ではなく、直接波近似変動と特異状態であることから、通常の地震前兆時間変化経験則が使用できるか若干の疑問はありますが、各ピークと初現との関係から、同じ時期が算出される組合せがあるかを検討したものです。前号では10月11日±時期が求められる関係を考えました。

その場合は右上に記したとおり、9/20~27期間に前兆終息が予測されることになりました。

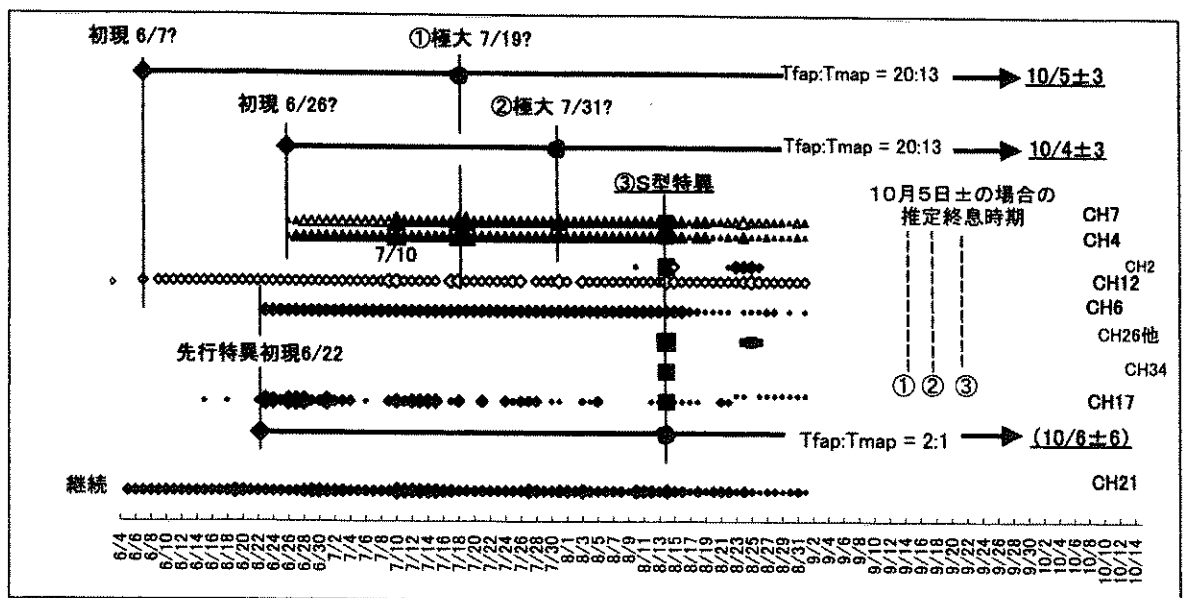
しかし前兆終息が、より早い時期となる可能性も否定できないため、

10月11日±以前の可能性について、あらためて検討しました。その結果、上のおり、10月05日±時期の可能性も否定できないことが判りましたので、ご報告させて戴きます。

上のふたつの前兆関係認識が正しいか否かは実際の前兆終息を観測しないと確認できません。どちらも間違っている可能性も完全否定できません。上図の下に前兆終息推定時期を記しま



◆10月15日±が推定される場合: ①7/19極大に対する前兆終息予測=9/20±
②7/31極大に対する前兆終息予測=9/23±
③8/14極大に対する前兆終息予測=9/27±



◆10月5日±が推定される場合: ①7/19極大に対する前兆終息予測=9/15±
②7/31極大に対する前兆終息予測=9/19±
③8/14極大に対する前兆終息予測=9/22±

したが、8/14には各前兆共にS型特異が出現しているため、最終的には各③の終息時期迄前兆が継続する可能性も考えられます。いずれにしても、実際の前兆終息を観測し、計算したいと考えます。より早い時期が推定される変化が観測された場合には続報でご報告予定です。

C) Copyright 2015 YSBO 八ヶ岳南麓天文台